

# 平成２７年度広島市スポーツ推進審議会第３回広島市スポーツ振興計画見直し検討部会 会議録

## I 開催日時

平成２７年１０月２３日（金） １５時００分～１７時００分

## II 開催場所

広島市役所本庁舎１４階第７会議室

## III 出席者

### １ 委員 ８名中６名出席

東川部会長、小笠委員、梶原委員、崎田委員、鍋島委員、山下委員  
（欠席：小林委員、西野委員）

### ２ 事務局

文化スポーツ部長、スポーツ振興課長

### ３ その他

公益財団法人広島市スポーツ協会事務局

## IV 会議次第

### １ 開会

### ２ 議事

「広島市スポーツ振興計画」の見直しについて

### ３ 閉会

## V 公開・非公開の別

公開

## VI 傍聴者

無し

## VII 会議資料

平成２７年度広島市スポーツ推進審議会第３回広島市スポーツ振興計画見直し検討部会 次第

平成２７年度広島市スポーツ推進審議会第３回広島市スポーツ振興計画見直し検討部会名簿

平成２７年度広島市スポーツ推進審議会第３回広島市スポーツ振興計画見直し検討部会配席図  
議事関係

議事資料１－１：広島市スポーツ振興計画見直しの視点等について

議事資料１－２：数値目標の進捗状況及び見直し案

議事資料２：広島市スポーツ振興計画見直し案（たたき台）

議事資料３：広島市スポーツ振興計画見直しに係る文言等の整備等（案）

参考資料１：第３回広島市スポーツ振興計画見直し検討部会議事資料に対する委員意見

## Ⅷ 会議・発言の要旨

### 1 開会

### 2 議事

#### 「広島市スポーツ振興計画」の見直しについて

##### 〔東川部会長〕

第1回及び第2回検討部会において、皆様から御意見等を伺った。それらを踏まえて、事務局でまとめ、計画の見直しの視点等と、具体的な見直し案（たたき台）を作成していただいた。本日の議事資料について、事前に皆様から御意見を頂いており、予め事務局にまとめていただいているので、これを基に審議を進めていく。

まず、議事資料1の計画の見直しの視点等について審議し、その後議事資料2に移り具体的な見直し項目の文案等について審議し、最後に議事資料3の文言の整備等について審議する。

それでは、事務局から議事資料1の計画の見直しの視点等について、説明をお願いします。

##### 〔スポーツ振興課長〕

（議事資料1－1及び1－2説明）

##### 〔東川部会長〕

まず、見直しの視点について御検討いただき、その後、数値目標について分けて審議を進める。見直しの視点について、御意見を伺いたい。

##### 〔鍋島委員〕

分かりやすくまとめているので、これで良いと思う。特に、(2)東京オリンピック・パラリンピックに係る各項目は、アは誘致について、イは気運の醸成、健康について、ウは育成について記載されており、バランスは良いと思う。

ただし、イについて、スポーツに親しむ市民の数を増やすことが、大きな壁になってくるので、そこに含まれているとは思いますが、職場のスポーツに係る視点で、市民レベルが各町内会位のところまで連携してやっていこうということがひとつと、もうひとつは、職場スポーツ・レクリエーションである。これは、特に若者がスポーツから疎遠になっている状況をどう変えていくかということである。地域ではなかなか引っ張り込めないなので、視点の中に、健康増進を図るとともに、職場コミュニケーションやメンタルヘルス向上に向けて職場スポーツ・レクリエーションを促進させるといった形が、長くなりバランスが悪いかもしれないが、スポーツに親しむ市民の数を増加させることにつながると思う。視点なので入っているとは思いますが、新しい切り口になるとしたら加えるかどうかということを経験いただきたい。

##### 〔スポーツ振興課長〕

確かに、昔のエスキーテニスのようなものもある。

##### 〔東川部会長〕

具体的な対応策に入れることも可能かと思う。これは、大きな方向性ということで、その中に、もう少し中身が見えるようにできないかという御提案だと思う。他はいかがか。

#### 〔小笠委員〕

今の話に関連すると、(1)のア「スポーツ推進委員や町内会等の地域の関係団体と連携して」に職場というのは入れにくいものなのか。

つまり、気軽にニュースポーツや通年でラジオ体操を行うことができる環境という中に、職場が何か活きるようなもの、体協や町内会に加えて職場が何らかの形で参画できれば更に増えると思う。

#### 〔鍋島委員〕

小笠委員がおっしゃられることはよく分かるが、(1)は、「健康寿命の延伸」がタイトルとなっている。職場スポーツは、健康年齢を上げるというよりも、若者が生き甲斐とか働き甲斐、職場のコミュニケーション、メンタルヘルスといった視点であるため、(2)が分かりやすいと思う。

#### 〔東川部会長〕

健康寿命の延伸というのは、ある程度年齢が上の方に限られる。例えば、鍋島委員の御発言を加味して、(2)のイを「市民の気運を醸成し、地域や職場等でスポーツに親しむ市民の数を増加させる」といった修正ができるかと思う。

それらも含めた形で、少し大きな概念で捉えていると思う。

#### 〔梶原委員〕

広島城の周りを昼休みにランニングしている人達というのは職場と地域どちらに入るのか。

職場でというイメージは、先ほど事務局からあったように、市役所の職員がエスキーテニスをしていたイメージである。今の時代は人と関わるような、人に気兼ねをするスポーツというのはあまりフィットしていないと思う。個人で好きな時にしている。職場でというのは、かつてあったという所へ戻すとか戻るといことになるので、そうはいかないと思う。敢えて入れるとすれば、場所を含めた、やりたい時にやれるという環境を整備するということになる。行政が用意するのは走る場所、広島城の周りに留まらず、東区スポーツセンターからの川沿いをサイクリングロードとして使っているが、こういったものを整備してあげる。理想的すぎるかもしれないが、市民が、働くサラリーマンの人たちがいつでも気軽にどこでもできるという、街づくりにつながる。イを、東京オリンピックのレガシーというか、遺産として、広島市の都市づくりに活かしていけないか、ということではないか。

#### 〔崎田委員〕

ニュースレベルの話になるが、東京では企業の運動会のようなものがまた増えているという話があり、職場での運動のあり方がまた変わってきていると思うので、文言として入れても良いのではと思う。

#### 〔鍋島委員〕

最近、アンケート調査を国が実施した。第1位がウォーキング、第2位が体操等を含めた運動、第3位がボーリング、第4位がジョギングとなっている。この結果から、1人でやるのがほとんどで、仲間と一緒にやるというレクリエーションスポーツのようなことはすごく少ない。自分が1人で思ったときにできることが、梶原委員御指摘のとおり、非常に割合が高い。

職場運動会が東京で増えているのはなぜかという、殺伐とした職場、スマホとパソコンだ

けで、あまり心の交流がないという環境の中で、もう一度運動会を取り戻していこうということになっている。過去へ帰るか、今のものを暫時改革して新しいスポーツを職場の中に取り入れることはできないかと思う。職場スポーツを促進してもらわないと、若い人を取り込めないという危機感がある。

#### 〔東川部会長〕

大きな流れからいくと、職場スポーツが盛んになり、広島のスポートも盛んになってきたという中で、ある時期から地域のもとの逆転して職場のものが遅れているということだと思う。

前回の振興計画の中には職場という文言は入っていない。新たな切り口というか、視点として見直すということは大いにあり得ると思う。イ自体は大きな捉え方になるので、具体的な施策案の中に、職場スポーツの気運を盛り上げるといった内容を追加する必要はあるかと思う。

鍋島委員いかがか。

#### 〔鍋島委員〕

(1)の、自転車は面白い提案だと思う。こういった具体的なものが見えているから、視点がよく見える。そういう意味では、(2)でも職場くらいは入っても良いのではないか。

#### 〔東川部会長〕

個人的には、ここにアイウと入っているのはどうかと思うところがある。視点なので、大きな方向性を示しておいて、具体的なものは別途掲載するということでよいとも思う。その方がすっきりする。山下委員いかがか。

#### 〔山下委員〕

職場スポーツの今の状況の中で、場所の問題がある。一部ではできるかもしれないが、公園がたくさんあってできるという環境であれば、非常に良い意見だが、いざ実施段階になると難しい問題があると思う。それを言い出せばきりがないかもしれないが、今の広島市の体育施設の状況から考えると、何%ができるかという話になる。広島市役所の方に、休み時間に運動しようというムードをどうやって意識付けするのか、するのは良いが、実際何をするのかということになる。皆走れと言われても、汗かいたらシャワールームを作れという話になっても困る。難しいのではないか。

#### 〔鍋島委員〕

職場単位で色々と考えてもらわねばならない。市役所の方は昼によく走っている。

ここ10年位は、バスケットピンポンといって、ネットがあって、台に穴があいているピンポンがある。バスケットの中に入ればポイントになる。そんなに汗はかかないが、頭の切り替えに職場で一緒に仲間でやるということがでてきている。スマートスポーツと言うが、昔の生涯スポーツ的なものがどんどん増えていっている。職場からではなかなか促進されないの、行政から発信して、健康づくりやメンタルヘルス上、職場でも昼の時間を活用するなどして、健康づくりの促進について協力をしてもらおうようにする。そして、自分の職場で何ができるかというときに、バスケットピンポンの台を買ってみようといった風土が職場にできれば、自分もやるという相乗効果が期待できると思う。難しいというのも良く分かる。

#### 〔小笠委員〕

山下委員のおっしゃられることはよく分かるが、私達の思っているスポーツのイメージはハードな競技レベルのスポーツを想像する。では、昼休みにそのレベルをできるのかということではない。しかし、先ほど梶原委員のおっしゃったとおり、例えば八丁堀地区の会社や官公庁の人たちが昼休みにあれだけ走っているのはなぜかという、彼らはある程度昼休みの時間が確保されていて、定期的に昼休みが12時から1時や1時から2時というのがある。その間に個人として自由な時間が使えて走ろうかという人もいる。別に走らなくても良い。ノルディックウォーキングでも良い。ニュースポーツでも良い。要はそれをやりやすいようにする環境づくりができる方法は何かないのかというイメージである。何か準備しろということよりも、一斉の昼休みよりも個人個人が違う昼休みという形がどこの会社も増えてきているので、その中で仮に1人でもチームでもグループでもできるような、やりやすい環境づくりが何らかの方法でできればよい。それに仕向けるような文言を書いてよいのではないかと。

#### 〔東川部会長〕

行政の宿題ということでもあるし、健康づくりあるいはレクリエーション的なことを含めたりしても、そのことが相乗効果として会社に影響を及ぼすということを考えると、それぞれが連携をとって、方向付けをしていく。これはよその宿題ですよ、これはうちはやらなくてよいですよ、という状況ではないということを出していった方がよいのではないかと思います。

そう考えれば、見直しの視点については、現状このままにしておいて、それぞれの連携、例えば商工会議所あたりにも投げかけをして、連携を深めながら取り組んでいく、ということは具体的な施策の中に書けるのではないかと思います。ひとまずそういう方向でよい。鍋島委員いかがか。

#### 〔鍋島委員〕

「地域や職場のスポーツに親しむ市民の」という形で文言を書いてもよいのではないかと。視点なので、今まで職場に触れていないのに、突然具体的に職場というと、目の前に見えないと思う。

#### 〔東川部会長〕

ひとまず預からせていただきたい。方向性としては、今御意見いただいたことをできるだけ盛り込んでいくということで受けさせていただきたい。

続いて、数値目標の見直しについてだが、ここについては、皆さんから頂いた内容が反映されているかと思う。宿題として残っていたのが、(2)の子ども達の体力の向上に関する数値目標だった。色々と御検討いただいた結果、当初の案で使っていた数値が妥当かどうかはなかなか言い切れないところがあるが、恐らく数値を比較した時に良いのではないかと御意見があった。ここについてはいかがか。広島県に聞いたところ、この数値を比較する調査方法が全国と異なるので、広島県の方は合計点で全国一を目指すとしたとのことだった。全国一と入れれば、実績でなぜ全国一にならないのかという、相当の叱咤激励が飛んでいるらしい。政令指定都市の市レベルのものがデータとしてないとのことだが。

#### 〔スポーツ振興課長〕

政令市があれば同じ大都市なので、比較的同じ条件で比較できるかと考えていたが、データがない。

〔東川部会長〕

県の平均より低いので、例えば県の振興計画の数値目標に倣うわけではないが、広島県で 1 番というのは可能か。

〔スポーツ振興課長〕

教育委員会に確認したが、どうしても大都市と山間部では、大都市の方が低くなる傾向があるようだ。どこの大都市もそういう状況なので、その差を埋めることができない状況である。

〔東川部会長〕

1 から 2 ポイント位の差なので、それほどでもないかと思ったのだが、体力向上に係る数値目標については、見直すのではなく、当初の計画で設定していた根拠に基づいて 1.5 % アップさせるということによいか。

〔小笠委員〕

以前も話があったが、そうすると結局年度でばらつきが出るということになる。

〔スポーツ振興課長〕

これで見ると 24 年の小学校が 7.7 % で、これが異常値かと思うが、それ以外については、概ね 6.0 % 弱程度である。種目の半分は超えているということなので、そのひとつ上の 3 分の 2 を目指そうということである。

〔梶原委員〕

学力テストも小学校 4 年生、5 年生、中学校 2 年生で実施している。算数、国語、理科、社会でやっているが、県平均と広島市平均が出ており、全て広島市が下回っているということではなかったと思う。体力についても、県平均を上回ることを目標にしてもよいのではないか。他都市を上回る市はないかもしれないが、広島市が自ら出すことはできる。学力では科目によって、県平均の上にとったり下にとったりしていると思うが大都市であれば概ね平均を上回れない。県平均を作るのが大都市の平均値である。そこを小さい町は努力して上にいくので、県平均の上に行くのだと思う。

〔小笠委員〕

もしその理論で行くと、広島市が頑張れば頑張るほど広島県の数字が上がるということになるので追いつけなくなるということになる。

〔梶原委員〕

しかし、学力では広島市の特徴で、算数は県平均を上回っているとかそういった教科があったかと思う。全てが必然的に下回るとは限らない。ただ、体力は学力と違って、物理的にそういうところへ収斂していくのかと思う。小笠委員がおっしゃられた、新しい尺度を掲げるというのは見直しがしくて良い。県平均を上回るということについて、教育委員会の意見はどうだったのか。

〔スポーツ振興課長〕

完全に不可能だと言っていた。大都市と山間部で環境が違うのだと思う。

〔東川部会長〕

県の平均が6割位なので、各市町の平均もあるのではないかな。データとして出すことはそんなに難しいことではないのではないかな。

〔スポーツ振興課長〕

公表されていない。

〔小笠委員〕

学力テストについてはやたらPRするかと思う。東広島市がまた一番でしたとか。

〔東川部会長〕

平均を超えようとする、大きい母数なので、たちごとこのようになる。

〔スポーツ振興課長〕

数ポイントの差だが、これがすごく大きい。

〔東川部会長〕

例えば、広島県の中で広島市が何位といったことは分かるのか。

〔梶原委員〕

各市町が公表してないので分からないのではないかな。

〔東川部会長〕

県の担当者は分かるかといっていた。もし分かるのであれば、現状何位で、上位にという目標も立てられるかと思う。これまで検討してきて、不確かな数値のところ根拠を置いてということに皆疑問を呈していたということもある。

〔文化スポーツ部長〕

数値目標の結果がどう出るかというと、種目数で、全種目が分母となり、そのうち超えたものが分子になるということなので、ひとつふたつ違うと大きな差になる。我々もそのぶれが無い方がよいということで、色々考えてみたが、ここは、小学校、中学校、高等学校と年齢を意識した部分で全体平均して出している。もっと母数の多い体力測定があるが、これは対象学年を小学校5年生と中学校2年生に限定したものしかない。このため、あまりに特化しすぎているので、全体の目標としてはなじまないのではないかと考えたところである。そうすると、今出ている区分で考えるということに一定の合理性があり、その中で種目を着眼点にして増やしていくということは理屈として合っているかと思う。ただし、出てきた結果のパーセンテージが年度によってでこぼこしてしまうというのはどうしても発生する。どこかでそれは納得して、これを目標にしようということにしないとなかなか難しいのではないかなと思う。

〔東川部会長〕

それであれば、新体力テストの種目は変わらないので、割合にするから1種目減っただけで大きな影響があるのであれば、例えば16種目中8種目以上で上回るなどではどうか。

〔山下委員〕

質問だが、体力合計点という、9種目の合計点だが、点数はどういった出し方をしているのか。

〔小笠委員〕

換算表があるはずである。

〔事務局〕

種目ごとに10段階の評価で、例えば50m走ならタイムで何点かが決まり、その合計点である。8種目なら80点満点が一番高い。それぞれで区分されている。

〔スポーツ振興課長〕

全数調査の一番の問題点は、高校生がないところである。小学校5年生と中学校2年生だけになると、これまで対象にしてきた高校生が除かれてしまう。

〔東川部会長〕

65%というのは何種目になるのか。

〔スポーツ振興課長〕

小学生は8種目、中学生は9種目になるので、小学生の場合は5種目以上6種目未満、中学生は6種目以上ということになる。

〔鍋島委員〕

8種目には何があるのか。

〔スポーツ振興課長〕

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げである。スポーツ振興計画の34から35ページにかけて記載してある。

〔東川部会長〕

65%以上として、括弧書きで小学生なら何種目中何種目以上といった形で分かるように記載してはどうか。

〔梶原委員〕

そうすると随分イメージが具体化してよいと思う。何%というのがはっきりしない。

〔東川部会長〕

前回が下回った場合、実は1種目だけ届かなかったということがはっきりしてよい。70%近いものが50%位まで下がったとなれば、すごく大きな変化があったと見えてしまう。こういう形で補うということではいかか。

〔全委員〕

異議なし。

〔文化スポーツ部長〕

具体的な数値だけみるとでこぼこがあるが、種目を見るとそうでもないということが分かる。

〔東川部会長〕

では、数値目標について、具体的な表記については事務局で検討をお願いします。

次に、数値目標の3についてだが、皆さんからは選手の輩出について、選手団の中の広島市に関わる割合を70%にということについて、異論はなかったと思うが、それに対して更に質的なことを、ここ最近の広島県勢の低迷から考えたときに力を入れるという目標を示すことはできないだろうかということで山下委員から御意見をいただいている。まず、70%についてはよいか。

〔全委員〕

異議なし。

〔東川部会長〕

そこに対してもう少し力を入れるというか、もう少し元気が出るような目標設定ができないかということだが。

〔山下委員〕

国体の成績は、5年前は9位だった。その当時に、何%というのを設定したと思うが、5年後にこういう成績になって、選手を多く市から出しても、必ず成績がよくなるわけではない。5年前に成績を何位ということを書いていない。例えば、広島市出身選手が前年は10位だったが翌年は5位にするといった、県の8位に対抗しているわけではなく、今年の広島市出身選手の成績を来年は上げる、ということにすれば、県が8位だとかそういったことは問題なくなる。数字は5年前に入れてないので、文言で、前年度以上、出場した選手に頑張ってもらいたいという気持ちのところである。

〔東川部会長〕

広島市関係の国体出場選手の入賞率は分かるのか。

〔山下委員〕

分かる。県の体協のホームページに入賞者のリストがある。例えばJTは5位だったとか。それならJTへ市の方から頑張ってくださいとか、来年上げてよねという意識付けができれば県の成績も上がってくる。

〔東川部会長〕

私も競技団体に関わっているのだが、広島市と広島県は選手強化を考えたときになかなか分けられないものがある。広島市で何ができるのか、やらなくてはならないのかを考えたときに、実際にある種目を強化していくといったときに、県の協会が中心になって強化していくという仕組みがあると思う。そこを、前年度を上回ると言った時に、広島市は当然そういう数値目標を出すということはそれなりのことをするということが前提となる。そこがどうなるのかが見えないところがある。むしろ、そういうことは出せないかと思いながら、この辺のことについては、県市一体となって、競技団体も含めて取り組んでいかなければならない内容かと思う。

〔山下委員〕

もちろんそうなのだが、私のイメージとして、例えばトップス広島のチームが9チームあり、国体に関係あるのが7チームだが、広島県の所属団体から強化についてどうこう言える立場でない。例えば、バレー協会がJTに強化をこうしなさいとかいう図式じゃない。ホッケー協会がコカ・コーラへこうしてくださいとか強化してくださいとかいう話じゃない。それよりは、ひとつのイメージとして、広島市に本拠地があるチームに対して、市から今度国体頑張ってください、去年7位だったからもう少し頑張ってくださいという働きかけがあれば、これはひとつの起爆剤になるという思いである。どの競技団体も、高校については、協会が高体連に対して人選については吟味してくれと言えるが、日本のトップチームに向かって頑張れとか、社会人のトップス広島のチームには全く言えない。そういうことを思えば、ちょっと踏み込んだ方が良いと思う。

〔梶原委員〕

それは、市と県の役割があるという感じを受けている。強いところへ市長自らがエールを送りにいくということは当然すべきだと思う。国体の成績を見ると、強い選手を育てる、発見するということ、そして育てていくということを十分に広島市と広島県でできていないということだと思う。ジュニアの育成というのは、私共スポーツ協会の重要な科目である。自主財源を使って何ができるかという、スポーツ少年団の育成だが、スポーツ少年団はアスリートを育てているのではなく、スポーツを通じた子どもの健全育成が主なので、そこから、山縣選手とか出てきたが、それを目的としていない。敢えて言うのであれば、競技団体から推薦された子どもを広島大学が作ったスポーツ医科学センターの血液検査をしてもらい、その子の医科学的な能力を判定・フィードバックし、スポーツドクターの助言をその親子に直接伝えていただき、進学をどうするか。そこまでである。進学させて、更に育てていくのは学校と県知事部局、市長部局がそこをサポートする仕組みを、支援するようなことをしないとなかなか効果が上がらないと思う。実はそういったセクションが県も教育委員会のスポーツ振興課任せでは、学校教育の中でやれと言われてもなかなかできない。このため、知事部局自らがそういった仕組みを、県を上げて作っていかねばいけないと思う。それを市にもやれとおっしゃれば、市もやるかと思う。議論はしないといけませんが、県がしっかりしないといけない。市だけではないと思う。

〔東川部会長〕

広島市は大きな所帯の中なので、県も市も一緒だというのはあるが、梶原委員がおっしゃったように、役割というものがあるのかなと思う。広島市でないとできないことはあると思う。ただ、山下委員がおっしゃるように、広島市出身選手が選手団に多くなれば良いかという、決してそうではないので、何か思いというか、そういうものをここの数値目標のところに入れられるかは何とも言えないが、計画の中に反映させることは重要なことかと思う。広島県の県選手団の中で広島市出身の輩出率は上がってきているが、成績はどうかということは基礎資料としてあっても良いかと思う。そういう形で、山下委員いかがか。

〔山下委員〕

それでよい。

〔東川部会長〕

先ほど山下委員からあったように、ただたくさん出場すれば良いということではないということを通理理解とした上で、具体的な施策の中に上手く入れられることを考えていきたい。

一通り数値目標、見直しの視点については概ね御了解いただいたということで、それらを踏まえて、具体的な施策に入りたい。

それでは、議事資料 2 の内容について事務局から説明いただきたい。

〔スポーツ振興課長〕

（議事資料 2 説明）

〔東川部会長〕

事前に御意見を頂いた参考資料 1 の内容を組み込んだ形で、事前配布した内容に一部修正が入っている。御意見あれば頂きたい。

〔山下委員〕

広島県と広島市が一体となってという文言が多くあるが、県とのすり合わせはできているという理解でよいのか。

〔スポーツ振興課長〕

すり合わせというか、一緒にやりましょうという話はできているが、具体的に何をするかというのはこれからである。

〔梶原委員〕

今回のオリンピックの合宿誘致は、一体となっている。むしろ市が県をリードして取り組んでいる。しかし、県バレーボール協会と市バレーボール協会、ハンドボールなどの小さな競技団体は県と市で同じ方が役員をされているが、陸上などの大きな競技団体は、県と市で明らかに役割が違っているように感じる。市は普及を、子ども達が親しむ、入ってくるところをやる。県はそれを伸ばす役割と、優秀な選手を研ぎ澄まして活躍させる役割となっている。市が裾野のところを担っている。それを一体と言うのであれば、一体である。そういう使い方で、合宿誘致はまさに一体である。理解をした上で使っているように受け止めていただかないと、新聞記事などで誤解が生まれる。役割が違う。

〔スポーツ振興課長〕

むしろ連携というイメージか。

〔小笠委員〕

これまで色々と御意見させていただいた中で、強化の部分については、山下委員もおっしゃられたとおり、市単独でできる話ではない。そのため、県と協力関係、連携は必要だという話である。そういう意見を踏まえて、この一体という表現を使っていると思っていたが、もし、一体という言葉で語弊があるのであれば、連携とか色々な言葉に修正すればよい。

〔東川部会長〕

文言の整理については、小笠委員や梶原委員から出たような、連携という意味合いの方が強いと考えられる。物事によっては一体とした方がよいものがあるかもしれないので、ここは精査させていただいて、適切な表現に修正する。

〔山下委員〕

生涯スポーツであれば、広島市が広島県や競技団体と連携してといった表現の方が良い。

〔東川部会長〕

先ほどの鍋島委員からあった職場のことを入れるとすると、健康づくり・体力づくりに向けたスポーツの振興になると思うが、いかがか。

〔鍋島委員〕

この項目のうち、「健康づくり・体力づくりに関する市民への情報提供などについて、民間スポーツクラブとの連携を促進します。」とある。これは、見直しの根拠等のことを謳っていると思うが、健康づくりや体力づくりに関して、市民、地域、企業に対して今までと少し違った形で物事を進めようと考えているのであれば、健康づくりや体力づくりに対する情報提供は大変重要である。企業が健康寿命を延伸するために、こういうことに留意してください、職場の健康を保持するためにはこういうスポーツが必要だ、ということをどの部署が所管し、啓発しているのか。民間スポーツクラブとの連携と書いてあるが、スポーツを促進するには、地域や企業での健康づくりや体力づくりに対して情報提供するという形のものが必要ではないか。特に企業の厚生担当に、行政から職場のスポーツ促進に関する資料などを送れば、環境が変わると思う。今は企業任せで、企業がそういう情報を持っていないから何も周知しない。担当者に対して、職場スポーツや健康づくりに関する情報を、研修やペーパー、ネットなど、色々な方法により提供することが必要だと思う。そうすれば、より充実した形で出てくると思う。

〔東川部会長〕

ここは膨らませて良いと思う。ある団体が施設を持っているので、企業向けのメタボ対策教室をやったことがあるが、PRできていないため、定員が埋まらなかったということが数年続いた。鍋島委員からあったように、広島市内には多くの企業があるので方法を考える必要があるが、例えば各区のスポーツセンターで受けられるとか、そういう対策をやっていますと積極的に発信する必要がある。スポーツセンターの月報などは企業へ送っているのか。

〔梶原委員〕

企業回りは、昨年から館長が実施している。それは、スポーツ協会の収入確保策である。企業の福利厚生で、スポーツセンターのトレーニング室やプールをご利用くださいとか、そういう売り込みは活発に行っている。

〔東川部会長〕

情報提供やPRはされているということなので、スポーツ協会が取り組んでいるようなことも組み込んだ形でこれらを含めて修正したい。

〔梶原委員〕

市はラジオ体操を各項目にいくつか入れて普及をさせようとしているのか。そうであれば、100万人ラジオ体操都市宣言みたいなものを掲げて、目標値に挙げてはどうかと思うがいかか。広島市は自転車を前へ出したが、敢えてラジオ体操も出してはどうか。

〔小笠委員〕

前回、西野委員から、ラジオ体操が実はすごいという話があった。子ども会が夏休みで子どもがいなくて町内会が実施したとあった。私の親が散歩していると、毎朝やっているのを見るそう。個人のグループだそうだが、そういうところは一杯あると、お年寄りの方がよく知っている。実はすでに先進的なものかもしれない。せっかくラジオ体操をしておられるので、それをいかに増やしていけるのかと思う。昔は会社で定時にラジオ体操があったりしたが、いつのまにかなくなった。

〔山下委員〕

工事現場や工場などは今もやっている。

〔小笠委員〕

オフィスではなくなったと思う。

〔山下委員〕

健康体操ということで、会社によってはテープを流してやっている。

〔東川部会長〕

全国調査で見ると、企業がラジオ体操をしている割合は結構高い。やはり効果があるようだ。

〔鍋島委員〕

製造業がやっている。オフィスではやらなくなった。社会運動的な視点からやる必要があり、キャンペーンをするなどによりラジオ体操をする人が増やせる。

〔梶原委員〕

これが職場での運動のきっかけとなる。

〔東川部会長〕

商工会議所辺りと連携してはどうか。

〔文化スポーツ部長〕

広く浸透させるという面では、それぞれではなかなかできないので、グループで固まるところに効率よく働きかけて、そこから上手く流していくなどするのがよいと思う。

〔鍋島委員〕

市民運動的にそれをやると変わってくると思う。私の学区では、夏休みだけ子どもが体操するのではなく、1年を通して老人クラブが声をかけて、公園で毎日やっている。色々なところでラジオ体操はされている。こういった活動を広めていくのは、ひとつのスポーツに対するきっかけとしてすごく良いと思う。

〔スポーツ振興課長〕

紹介をするだけでかなり効果があるように思う。

〔文化スポーツ部長〕

どう拵げていくかということを経内部でも検討したのだが、具体的にどう取り組んで行くかというところまで行き当たらなかった。確かに今おっしゃっていただいたようなキャンペーンのようなものをやれば、インパクトがあつて全市的に広がるきっかけのひとつになるかと思う。例えば体育の日のような分かりやすいタイミングそれを打ち出すのも良い。

〔スポーツ振興課長〕

広報誌でスポーツ特集みたいなものを組むといった手もあるかと思う。

〔山下委員〕

一番効果があるのは産業医への情報提供である。各会社に産業医がいるので、会社も健康増進のために医者が言うのでやろうかということになる。医師会に聞けば分かると思うが、産業医の会議などへ当たれば効果は大きい。

〔小笠委員〕

弊社でも、月に一度総務の上層部と産業医がミーティングしている。健康策としてこういうことをやろうというのは提案されているようだ。先生の言うことを全てやったら大変ですよという位提案されている。

〔スポーツ振興課長〕

例えば、「キャンペーンを行うなどラジオ体操の普及」といった形に修正してはどうか。

〔山下委員〕

キャンペーンをする時には協賛に医師会がいると、広島市だけでなく、医師会などで重みをつけた方がインパクトがある。

〔文化スポーツ部長〕

今回の見直しの視点でも御了解いただいたように、競技スポーツでないにしても、市民が身近なところで体を動かすということを掘り起こすことが、競技スポーツにもいずれは帰着するということだと思う。ここを今回の見直しの一歩の成果にしていきたい。その具体的な推進案として、ラジオ体操の地道な市民の取組というところを喚起していくということに結び付けて打ち出していきたいと考えている。

#### 〔東川部会長〕

そこと関係するのだが、公園を使いやすくすることができないか、ということが、検討部会の委員でない方からも御意見があったと思う。実際に、そういうことを計画の見直しに取り込んでいこうという方向である。しかし、例えば公園のスポーツ環境を整えますということになっているが、多少使えるようになったとしても、今の世の中の雰囲気は公園に行ったら危ないというところもあり、どうやって公園に行かせるかというのがひとつの課題かと思う。各区スポーツセンターのコーディネーターやスポーツ推進委員の方々の活躍の場として、何か考えられるところはないかと思う。親の立場からすると、公園に行って何があるか分からないという今の状況は、非常に不安な状態にある。決してそういう状態ではないが、先入観がある。そうすると、公園に行ったら近所のおじいちゃんおばあちゃんが居て、ある時間については、自由に安心して遊べる、子どもをひとりで行かせても安心だという環境になっていかないと、鳴かず飛ばずの状態になってしまう。その対策を立てないと、公園や身近な場所の確保を考えたときに活用できない。

#### 〔梶原委員〕

公園に器具を置いて使ってもらえるように移行していこうとすると、今の町内会、更には体協、スポーツ推進委員、この辺りがネットワークを組んで取り組まないと無理だと思う。体協にしてもスポーツ推進委員にしても、学区単位、小学校区であるため、エリアが広い。この中に公園が何十とある。そうすると、これは町内会単位に降りてこないといけない。町内会のメンバーはお年寄りが多いので、町内会に、公園の機器、備えを使えるようにしてもらえるように協力してもらおう。そういう仕組みを区役所の地域起こし推進課に置いておくとか、スポーツセンターに備えを置き、貸し出すようにするかだと思う。

#### 〔東川部会長〕

イメージとしては、登下校の見守り隊のような組織が上手く活用されていけば、数値目標の中で、スポーツができるような器具等を設置してスポーツができる環境を整える、これはその通りだと思うが、こだわりながらあえて言うと、安心して運動やスポーツができる環境というものもありうるのかなと思っている。私の近所の公園ではほとんど子どもが遊んでいない。

#### 〔鍋島委員〕

社会のひとつの流れの中で、私達はよく川で遊んでいたが、キャンペーンで、良い子は川で遊びませんというのがあった。川で鉄砲水が出たりして流れることがあった。そういったことがあったので、川で絶対子どもを遊ばせてはいけないとなった。それから今度は、安芸区での児童殺人事件があったときに、良い子は公園で遊びませんとなってしまった。それで通学の際の見守り隊ができて、今は安心できる形になった。そういう環境でスポーツをしなくなるから、8種目の種類もすごく変わっている。元は走り幅とびがあったのだが、子どもの体が自然と回って着地の際に骨折するということがあって、体力テストには走り幅とびがなくなって、立ち幅とびになった。柔軟性を計るのに、ずっと姿勢を維持させていると、毎年腰か膝かを何人か骨折する生徒がでてくるため、柔軟性を見ることがなくなった。子どもが運動しなくなると同時に、体の感覚がずれてきている。そこについて、もう一度スポーツ振興ではないが、身近なところからスポーツや体操をやること、場所がないということで、学校の体育館だけでなく、スポーツセンターやその周辺、高齢者の施設、特に公園はスポーツの場として今回整備することなので、環境を整えていくことが、スポーツ人口を増やすことにつながると思う。し

かし、重要なのは指導者だと思う。指導者がスポーツを指導するだけでなく、地域の中で子どもに対して楽しい出会いの場所を作って引き出して、徐々にスポーツの楽しさを教えていくような環境が必要である。その辺りを思い切って一步踏み出さないと、どんどん下がる方向になっていくと思う。

〔東川部会長〕

文言としては、この辺のことだろうというイメージはつかめたが、少し踏み込んだものが出るかどうかは、次の中間報告までに検討できればと思う。

今回新しくできたものとして、障害者スポーツの競技力向上がある。これは当然のことだし、積極的にしていかななくてはいけない。例えば国際大会や全国大会の誘致を考えたときに、これは、障害者の全国大会も含んでいると考えてよいか。

〔スポーツ振興課長〕

そのとおりである。

〔東川部会長〕

もう少しアピールできないか。全てが入っているからこれ以上書かないというわけにもいえないと思う。大きな大会は難しいかもしれないが、障害者の競技スポーツが遅れていると思う。パラリンピックに関係してやれることは限られているが、例えば障害者の全国大会を積極的に誘致するということがあっても良いと個人的には思う。

〔スポーツ振興課長〕

本日は、障害福祉課が全国大会に行っており、欠席しているため、調整させていただきたい。

〔小笠委員〕

恐らく今回の中で注目を集めるのは自転車関係のことだと思う。これが非常にユニークだと私も思っているが、これが出てきたら、必ず自転車置場の話が出てくる。これを何らかの、今すぐどうこうするというのはこちらの部署では違うことだと思うので、何らかの文言で対応できる方策がないかと思う。自転車を利用する者の増加を活かした取組という中に、買い物や通勤等があるが、通勤であれば会社が責任を持ってやればよいが、他のことについて、街中に置くときにどうするのかということになる。今は袋町しかない、あそこしかないという話が言われがちである。少しセーフガードがひとつ欲しい気がする。

〔文化スポーツ部長〕

道路交通局の方で、自転車走行空間の整備ということを今年度から一部だが実施している。自転車を利用しやすい、安全に、歩行者も安全にという観点での取り組みはされているが、自転車利用が増えれば、確かにどこに停めるのかという問題があって、通勤であれば会社と自宅ということだが、それ以外ということになると駐輪場の整備をどうするかというのは大きな課題である。今も課題ではあるが、中心部で利用する自転車と、日常的に生活の中で自分たちの身の回りで利用するときとあるかと思う。その辺りは、道路交通局がハード面の所管をしているので、協議をした上で打ち出さないと、言っているだけではないかとなりかねないので、出し方を検討したい。

〔小笠委員〕

国体の70%の目標について、前回まで70%は妥当だと思っていたが、人口比率でいくと、広島市は県の4割ちょっとであり、すでに出場のパーセンテージが50%を超えている。これがいきなり70%まで行くと、県内の他市町に相当影響が出てしまう。逆の話となって申し訳ないが、70%というのはちょっと大きいかと思う。では、何%ならいいのかという根拠はなく言っているので申し訳ない。70%というのは選手団のほとんどを占めるイメージなので。

〔梶原委員〕

ふるさと選手を算入したからこういう数字になった。

〔文化スポーツ部長〕

データの言くと、平成26年度の県の国体選手のうち、広島市選手がふるさと選手を含めて出すと、57.7%である。なので、ちょっと高めの数字で70%となっている。現実的な話をすると、なかなか一足飛びにはならない。限りなく限界に近いところがあるので、6割位にということもあると思う。

〔小笠委員〕

広島県勢の3分の2とか。

〔文化スポーツ部長〕

実際、57%、55%、57%というここ3年の推移なので、一概に伸びていくというのは難しいと思う。長い目で見ると増えてくるかもしれないが。ふるさと選手を算入しなければ、26年度で言えば47%なので、1割位アップするということになる。

〔東川部会長〕

私もひっかかっているところがあるので申し上げるが、70%ということになると、全県的な立場から見ると、広島県の選手団は広島市がやっているということが出るだろうというのは気になっていた。しかし、意気込みも示さなければいけない。

〔山下委員〕

他の地域も、それならうちも頑張ろうということで、相乗効果により成績が上がってよいのではないか。

〔梶原委員〕

県人口比でいくと40%位だが、国体へ出る若い年齢層比でいくと、広島市の20代30代の人口はもっと多く50%以上いくのだと思う。だから、65%になってもほぼバランスはとれていると思う。

〔小笠委員〕

目標値として、あまりにも現実的には無理な数字であると思う。

〔梶原委員〕

20代30代の人口比を調べてみて、それを基に調整してよいのではないか。

〔東川部会長〕

意気込みはしっかりと受け止めながら、少し全体的な立場から考えたい。これは預からせていただく。

最後に、議事資料３の文言の整理について事務局から説明をお願いしたい。

〔スポーツ振興課長〕

（議事資料３説明）

〔東川部会長〕

これについてはよろしいか。

〔全委員〕

特に意見はない。

〔東川部会長〕

これで、本日の議事は終了となる。もう一度持ち帰っていただいて、何かお気づきの点があれば事務局へ御連絡いただきたい。

それでは、以上を持って審議を終了する。事務局から連絡があればお願いしたい。

〔スポーツ振興課長〕

今回は、部会で頂いた意見を審議会に返したいと思う。１１月下旬に審議会を開くこととしたい。今回頂いた意見を基に修正し、審議会の前に委員に資料を送付させていただき、御確認の上、御承諾いただければ審議会に諮ることとしたい。

今後のスケジュールについて、審議会でご意見があった場合は再度部会を開くことになるかもしれないが、年内を目途にまとめることとしたい。１月に議会報告、２月に市民意見の募集を経て、年度末に計画を改定したいと考えておりますので、よろしくお願いしたい。

〔東川部会長〕

委員の皆様には、御意見伺うこともあろうかと思うが、その際はよろしくお願いしたい。

それでは、第３回スポーツ振興計画見直し検討部会をこれで終了させていただく。御協力ありがとうございました。

#### ４ 閉会